

IAEA が福島第一発電所に保管されている水の管理についてレビューを実施

オーストリア、ウィーン

国際原子力機関（IAEA）専門家チームは、2011年の事故以来、福島第一原子力発電所に保管されている大量の処理水の処分方法の決定に向けた日本の進展を歓迎する。

本日公表されたレビュー（リンク）では、専門家チームは日本の小委員会が2月に概要を示した2つの管理された処分方法-水蒸気放出と海洋放出-について、その両方が技術的に実施可能であると述べた。これらは、世界中の原子力発電所においても、安全と環境影響評価に基づいた個別の規制認可の下、日常的に実施されている。IAEAの専門家は、小委員会による日本政府への提言は、包括的・科学的に健全な分析に基づいており、必要な技術的・非技術的及び安全性の側面について検討されていると述べた。

日本政府はIAEAに対して、2月10日に公表された多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会報告書を含む、保管されている水の管理についてのレビューを要請した。

IAEAと日本政府は、過去10年以上にわたり、福島第一原子力発電所事故後に対処するため、放射線モニタリング、環境修復、廃棄物管理、廃炉などの分野で広範囲にわたり協力を実施してきた。

ラファエル・マリアーノ・グロッシーIAEA事務局長は2月の日本への公式訪問中、安倍晋三

総理大臣及びその他の政府高官と、廃炉に向けた進捗状況、タンクに保管されている水に関する今後の課題について、議論を行った。グロッシェ事務局長は、IAEA はこれらの課題への取組について、日本に対する技術的な支援を続けていくと発言した。

福島第一原子力発電所の汚染水は多核種除去設備（ALPS）として知られるプロセスでトリチウム以外の核種を取り除くために処理され、サイト内に保管されている。タンク貯蔵容量は 2020 年末までにおおよそ 137 万立方メートルまで増加するが、全てのタンクが 2022 年夏頃に満杯になると予想されている。

IAEA 専門家チームは、福島第一原子力発電所の持続可能な廃止措置活動にとって、保管中の処理水の処分を含む水管理が非常に重要であると述べた。保管されており、必要に応じて更に処理される ALPS 処理水の処分方針を、安全性を考慮しつつ全てのステークホルダーの関与を得ながら、喫緊に決定すべきとの 2018 年の IAEA 調査団から福島第一への助言を繰り返す。

日本政府が処分方法を決定した際には、IAEA は、処分の前・中・後の放射線安全にかかる支援を提供するため、日本政府と協力していく用意がある。

“安全で効果的な ALPS 処理水の処分実施は、独特かつ複雑な事案である。解決策は利用可能である。持続的な留意、安全性のレビュー、規制機関の監督、強固なコミュニケーション計画に支えられた包括的なモニタリングプログラム、全てのステークホルダーの適切な関与が必要である”とクリストフ・グゼリ団長（IAEA 核燃料サイクル・廃棄物技術部長）は述べた。